



# 三事研広報

NO. 7 H29. 3. 24 発行

三重県公立小中学校事務研究会

発行者 釜須 雅子

編集責任者 東 路

日ごとに暖かさを感じ、花の便りも聞かれるようになってきました。早いもので、今回の広報が今年度の最終号となります。今回は、12/13 第3回研修講座で研究部より提案のあった「三重県公立小中学校事務研究会のあり方について」と、各部の一年間の活動まとめを掲載させていただきます。

最後になりますが、今年度も三重県公立小中学校事務研究会の活動にご参加いただき、また、アンケートへのご協力もいただきましてありがとうございました。皆様からいただいた貴重なご意見は、役員会・委員会で検討し、来年度以降の活動に引き継いでいきたいと思っております。今後とも、三事研の活動にご協力よろしくお願いたします。

## 三重県公立小中学校事務研究会のあり方について

三事研研究部

第3回研修講座では、研究部提案の第8期中期研修計画（案）と今後の三事研のあり方について、ワークショップの時間が足りないほど熱心に話し合ってくださいました。また当日欠席された方々からも多くのご意見を頂戴しました。会員の皆様が自分に関わることとして、真剣に考えていただいたからだと実感しています。ありがとうございました。

三事研研究部・役員会では会員の皆様からの意見を参考にさせていただきながら第8期中期研修計画（案）策定に向けて再度検討を行い、変更させていただいたところもございますので、書面にて報告させていただきます。

### （1）【三事研の理念】

「もっと学びたい、もっと研修したいという意欲ある会員が相互に研修し高めあう」組織です。

こういう思いでこういうことをするために集まっているというのが三事研の理念です。三事研は、組織としてお互いが役員を出し、研修をし、高めあっていく場です。三事研の大切にしていかなければならないこの「お互いを高めあう」という部分が、提案には抜けていましたので、その部分を追加しました。

## (2) 【三事研の目的】

会員一人一人が思い描く『目指すべき学校事務職員像』に少しでも近づけるために、理想的な学校事務を追求し、具体的な手法を相互に研究・実践する。

三事研の理念に同意し、みんなが集まり、こういうことをしていこうというのが三事研の目的です。三事研の目指すところを表しています。提案につきまして概ねご理解いただきました。「目的」の表現を、もう少し具体的にわかりやすくするために太字の箇所を変更しました。

## (3) 【三事研の組織】

- (1) 会則により、支部を置き、研究機関を支部単位としている。
- (2) 三事研の研修は出張として認められている。
- (3) 加盟団体として全事研、東海事務研がある。

提案につきまして概ねご理解いただきました。

## 【第8期中期研修計画】

### (4) 研究大会継続の意義について

- ・『自分のやっていることをまとめて人に発表する』という能力を身につけてもらいたいというねらいがあります。
- ・発表すること・発表を受けることにより会員全体での情報共有がはかれ、会員相互を高めあう場として重要な意義を持つと考えています。

三事研では研究組織として研究成果を積み上げる場であると考えます。『自分のやっていることをまとめて人に発表する』という機会を提供する場・他地域の情報を得られる場を今後も大切にし、研究大会を継続していきたいと考えます。継続に関しましては、概ねご理解いただきました。

### (5) 研究発表の方法について

- ・支部への負担軽減を考え、ローテーションによる支部発表は行いません。
- ・全支部から実践レポートによる研究発表を行ってまいります。

支部の組織がない地域もあり、支部発表の形式に限定することなく、かつ、支部や個人の会員に過剰な負担とならない研究発表の方法を提案します。

一つには、支部のローテーションをなくしたこと

二つ目は、多くの会員の参画による実践交流の場とすること

そのために、実践レポートによる研究発表に変更したいと考えます。発表は支部・団体・個人のいずれかでしていただく予定です。その選択は支部で決定をお願いします。

支部から提出していただくレポート数は、各支部 2 本と提案しましたが、支部の負担軽減を考えて各支部 1 本とします。

レポート発表では会員相互の実践交流や地域間交流を図り、課題や問題点について等、参加者全員で考えることができるような分科会にしていきたいと考えています。

レポートにつきましては、A4（表裏）1 枚、資料があれば添付していただくという形でお願います。

## (6) 研修講座・研修の期間について

- 研修講座の回数 5枠から4枠に変更し12月の第3回研修講座をなくします。
- 研修講座の開催地 第2回研修講座を津市以外の地域の持ち回りとします。

普段は遠方でなかなか参加しづらいという会員の方にも、持ち回りでいろいろな地域において実施することにより、時には近場の地域で開催され参加しやすかったという状況を作るという意味もあり、津市以外の地域で第2回研修講座を実施してきました。そして、さまざまな地域に出向くことにより、それらの地域を知ることができます。また、その地域で活躍されている方に講師をお願いしたり、それら地域の会場をお借りして、具体的に目に見える形で三事研活動をアピールしたりすることができます。そのことが、学校事務職員の研究意欲の理解や三事研組織の認識、様々な人とのつながりなど、地域の研究会活動の活性化をはかる機会としていただきたいと思います。これらのことをふまえ、第8期では今までのローテーションにより津市以外の地域で実施していきたいと考えます。

## (7) 東海事務研究会とのつながりについて

- 東海大会での分科会発表支部ローテーションを組んでいきます。

研究大会での支部発表がなくなりますので、東海大会での発表が唯一、発表分科会を運営するという経験ができる場となります。分科会運営で得られる達成感は、必ず学校運営にも生かされると考えます。また苦勞を分かち合うことで、支部の会員同士のつながりもさらに深まります。

研究大会でのレポート発表と同様に、会員みんなで少しずつ負担していくという意識を持っていただき、支部の組織がある地域だけに発表の負担がかからないよう、ローテーションによる発表をお願いします。

## (8) 役員組織・理事の選出方法について

- 役員数を減らし、書記は研究部、会計は研修部を兼務します。
- 新たに再編した理事選出ブロックのローテーション表により、理事を選出します。
- 会長、会長につながる副会長は、総括主幹・主幹・主査の中からできる限り選出をしていただきたい。
- 役員候補者推薦委員は支部委員が兼務し、推薦委員長はローテーションにより選出します。
- 事務の手引き編集委員は、今までローテーションに入っていなかった支部も含めた新たなローテーション表により選出します。

会長、会長につながる副会長は総括主幹・主幹・主査の中から選出をしていただきたいと提案しましたが、該当者が少ない等、地域差もありますので「できる限り」という言葉を付け加えました。

また選出ブロックにつきましては、学校統合による会員数の減少も考慮しながら、会員数のバランスを考えて決定していますので、提案させていただいたブロックでの選出をお願いします。

## (9) 理事・支部委員の負担軽減について

- 支部委員会の開催回数を年間5回から3回に減らします。
- 情報部の組織・機能を再編します。  
    広報・・・研修部で兼ねます。    調査・・・研究部で兼ねます。
- 「ひろば」は会員のみ自由投稿を募り、広報に掲載します。
- 3月の新旧役員引継会をなくし、旧役員は総会までの任期とします。
- 業務の精選により、経費の削減を図ります。

提案につきまして概ねご理解いただきました。

支部の組織がなくなり、支部で集まる機会も少なくなっている地域もあります。今後は役員会で話し合われた内容をホームページに掲載するなど、会員の皆様に情報提供をしていく必要があると考えます。またホームページを多くの会員の皆様に見ただけのように研究大会のまとめを掲載するなどホームページの充実にも取り組んでいきます。

今後も第8期中期研修計画（案）策定に向けて検討を重ねていきます。  
ご意見がございましたら、支部の理事・支部委員を通じてお聞かせください。

### 各部活動のまとめ



## 研究部

「第6期中期研修計画」の中で策定した「教育活動活性化計画」に示された行動・実践に挑戦し続ける事務職員のミッションである「子どもの豊かな育ちを実現する学校事務」を研修主題とした「第7期中期研修計画」の1年目がスタートしました。

今年度は「つなげよう実践　すすめよう研究活動」をテーマに、課題解決能力を育成する研修や、研究大会の還流報告、個人や組織での実践発表を行い、資質向上をはかる研修を実施しました。

現在、三事研では支部発表や役員選出等、三事研運営の継続が困難になりつつあるという課題があります。今後も自主的・自律的で自由な研究活動の場である三事研組織を大切に、存続させていくためには、会員一人一人が『自分自身に関わること』として考え、三事研の理念・目的を再確認した上で、今後の三事研のあり方を見直していく必要があります。

そこで12月の第3回研修講座では、平成30年度から実施する「第8期中期研修計画（案）」と今後の三事研のあり方について提案を行いました。その後会員からの意見を聞かせていただく場として、グループワークを実施し、時間が足りないほど熱心に話し合ってくださいました。また当日欠席された方からも多くの意見をいただきました。

今後、会員の皆様からいただいたご意見も参考にしながら「第8期中期研修計画」の策定に向けてさらに検討を進めていきます。

## 研修部

今年度は第7期中期研修計画の1年目として、研修主題である「子どもの豊かな育ちを実現する学校事務」の実現に向けて「つなげよう実践 すすめよう研究活動」をテーマに取り組みました。

県大会では大阪大学人間科学研究科教授 小野田正利さんを講師に迎え『学校・園と周辺住民とのトラブルをどう考えるか～「子どもの声は騒音かもしれない」という前提で始める良好な関係づくり～』についてご講演をしていただきました。また、尾鷲支部からは事務職員が学校経営で授業以外の間接的な教育活動を支援するため、マネジメント力の育成と向上を意識した研究の実践について発表していただき会員と相互理解を深めることができました。

年3回の研修講座では、事務職員としての資質向上をめざして、各方面から講師の方を招いての講演や会員による個人実践発表・還流報告等を行いました。

県大会や研修講座の発表者、参加者の皆様をはじめ、様々な形で関わっていただいた皆様に改めて感謝いたします。アンケート等でいただいた貴重なご意見・ご指摘は十分に検討し、次年度以降の活動につなげていきたいと思っております。一年間本当にありがとうございました。

## 情報部

今年度、情報部では、調査活動、広報活動、「事務の手引き」の編集、ホームページの管理・運営を行ってきました。調査活動では、共同実施について県内の実施状況調査と県内支部研究状況調査を行いました。また、全事研主管の5月期調査と11月期調査を県内各支部・各市町教育委員会の協力のもと実施しました。広報活動では、三事研広報を年7回発行し、研修講座の報告、全国大会や東海大会の案内等を掲載しました。また、会員の交流を図るため、広報誌「ひろば」を発行しました。「事務の手引き」編集委員会は、わかりやすくより使いやすい手引きをめざして編集を進めました。ホームページでは、組織、各部の活動内容の紹介をはじめ、「三事研広報」や研究大会の案内等を掲載し、情報の発信に努めました。

今年度いただいた「三事研活動内容アンケート」の貴重なご意見を、今後の情報部の活動に活かしていきたいと思っております。一年間、情報部の活動にご協力ありがとうございました。

### 今年度末退職される会員の皆様へ

5月頃に、来年度の「ひろば」の原稿依頼を行う予定です。  
4月からの連絡先(ご住所・電話番号かメールアドレス)を各支部の支部委員さんにお知らせください。よろしく願いいたします。

